

No.96

平成24年6月15日発行

診断ひろこ

一般社団法人 兵庫県中小企業診断士協会 発行者 相良 糺

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-8-4 神戸市産業振興センター8F
TEL (078) 362-6000 FAX (078) 361-8722 URL: <http://www.shindan-hg.com>

新組織の スタートに当たって



一般社団法人
兵庫県中小企業診断士協会
会長

相良 糺

私たちの組織は、今年4月2日をもって「一般社団法人兵庫県中小企業診断士協会」と変わりました。既に皆様にもお知らせしていたように、公益法人制度改革に伴い従来の本部・支部の関係から各県組織は独立した団体となり、本部は連合会組織となりました。兵庫県の組織はどのようなものにしたらいのか、約3年間の検討を経て今回の組織に改編したものです。このことに伴い、今までの本部指導型の方式から、各県協会が独自の責任を持って活動していかなければなりません。とはいっても、兵庫県では既に自力でやっていけるだけの体力は培われてきており、その活動実態に大きな変化はありません。むしろ自由度が増えた分、活動領域をさらに拡げて組織の発展を図っていくことが可能になります。

会員活動の活発化と診断士の資質向上

5月22日開催の社員総会において、事業計画・収支予算の承認と新執行部が新たにスタートしました。現在、県協会には4つの委員会と10前後の研究会在活動しています。これらの活動の目的は会員相互の交流を図りながら、診断士としての知識・技能を高めていくとともに、新たなビジネスチャンスを開拓していくことです。これらの活動のより一層の活発化を図っていくことが大切です。また受託開発センターでは、行政関係や民間企業からの受託案件をとりまとめし、公募形式で会員の皆様に業務依頼を行っております。組織としては当然この発展も目指していかなければなりません。独立診断士の皆様においては、自らの営業努力で顧客獲得を図っていくこ

とも大切です。そのような意味からも各委員会や研究会のレベルアップを図っていかなければならないと考えています。

魅力ある兵庫県協会へ

数ある資格の中でも、中小企業診断士の資格取得は難関であると言われています。折角勉強して資格を取得してもそれが活用できなければ意味がありません。現在県協会の会員数は200名強ですが、県内で資格を持っている人はその倍くらいです。独立開業されている方で非会員の方もいます。また、企業にお勤めの方で非会員の人も多数おられます。なぜ会員にならないのかその理由の多くは、あまり意味がない、とかメリットがないとかいうことなのでしょう。いろいろな方のニーズに全て応えることは難しいかも知れませんが、私たちがまとまって集団で中小企業診断士の存在をアピールしていくことも大切なことです。そういった意味からも兵庫県協会の魅力づくりを役員一同考え、実行していきたいと考えています。

最後に、このたびの新法人化とたまたま重なってしまいました。事務局スタッフも交替しました。まだまだ不慣れな面もあり、会員の皆様にはご不便をおかけしています。しかし、事務局は私たち協会の活動拠点であり、あくまで会員の皆様に親しまれ、会員の皆様や委員会の活動をサポートしていくことが目的です。それと同時に会員の皆様が気楽に立ち寄れるところにしていきたいと考えております。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

新入会員紹介

秋 松郎 (あき まつろう)



金融機関で25年、法律事務所で7年間の勤務経験があり、金融、法律、IT分野で豊富な実務経験があります。経営コンサルタントとして金融の専門用語や取引慣習等を中小企業経営者に分かり易く伝えること、実面的、抜本的、中長期的な視点で経営課題に向き合う提案を行うことを心がけています。経営者の抱える様々な課題は、逆の視点から見ると新たな「機会」を得るための処方箋でもあります。前向きに頑張っている中小企業事業者の経営課題を「機会」に変換するための実践的なご支援をさせていただきます。

URL : <http://www.sakura-godo.com>

石野 稔 (いしの みる)



はじめまして、石野と申します。現在37才です。よろしく申し上げます。
東京から転職とともに神戸へ10年振りに戻って参りました。前職は金融機関に勤めておりましたが、今は商社でマネジメントをしております。

会社規模は「まさに中小企業!!」なので、診断士としての能力を高めつつ、実際の現業でも取り入れていく(TRYする?)という二輪走行で頑張っていきたいと思っております。

独立診断士の方、企業内診断士の方、色々な方と交流を深めていきたいと考えておりますので、皆様、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

北村 佳照 (きたむら よしてる)



はじめまして。北村佳照と申します。平成23年4月に中小企業診断士の登録をいたしました。平成24年1月末まで大阪の大手税理士法人にて約8年間勤務してきました。この2月から人事系のコンサルティングファームに転職し、近い将来独立に向け、修行中です。

私は、税理士法人に勤務していたので、管理会計、キャッシュフロー改善、資金繰り管理、節税対策(生保を活用など)、事業承継(経営承継・資産承継)、金融機関対策等の財務分野が得意です。自分の持つノウハウや人脈をフル活用し、中小企業に本当に役立つ診断士を目指していきます。

清水 和也 (しみず かずや)



H24年3月まで、(公財)大阪産業振興機構に在職し、小規模事業者等設備貸与制度の企業診断から審査会の業務を担当。また、クリエイションコア東大阪の常設展示場・インキュベーションマネージャーを兼任し、企業訪問を約140件、経営相談等を約40件経験しました。また、中小企業で長年営業職及び営業管理職を経験しました。独立に際して、地元である兵庫の企業支援を行いたく思い入会いたしました。以上の経験から、営業・マーケティング・設備投資計画や事業計画等を得意としています。今後ともご指導のほど、宜しくお願い致します。

中村 佳織 (なかむら かおり)



2010年に診断士を取得し、2011年より独立して、マーケティング・営業など販売面でのコンサルティング支援をさせて頂いております。大学卒業後、15年セールスプロモーション会社に勤務していたため、プロモーション企画を特に強みとしています。まだ駆け出しではありますが、持ち前の元気とパワーでいろんなことにチャレンジし、力をつけていきたいと思っています。よろしく申し上げます。

URL : <http://www.reface2011.net>

人見 昭 (ひとみ あきら)



昨年9月に42年勤めた会社を退職しました。退職後は、十数年前に取得した中小企業診断士と社会保険労務士の資格を活用したいと考えていましたので、すぐにそれぞれの兵庫会に入会し、プロコン育成塾7期の受講も決めました。プロコン育成塾は期待通りで、特に私のように大企業の組織に長期間慣れ親しんだ者には、意識の切り替えと、中小企業や独立士業の厳しさの体験に役立ちました。退職後半年が過ぎましたが、趣味やボランティアなど地域活動の領域が増え、独立士業の気力も薄れがちですが、まだまだ人生も長いので、診断業務や労務相談にいつでも対応できるよう準備を続けています。今後ともご指導よろしく申し上げます。

伏見 明浩 (ふしみ あきひろ)



はじめまして！伏見明浩と申します。大学卒業後、メーカーにて商品開発・設計・生産技術・品質管理業務に従事してきました。平成16年8月に中小企業診断士登録後は大阪支部に所属して企業内診断士として活動しておりましたが、これまで培ってきた知識や経験を活かして多くの企業や経営者の方のお役に立てればと思い、大学院(会計学専攻)へ進学した後、平成19年4月に独立開業しました。このたびは、診断士としての活動や研鑽の場を広げるべく1月から入会させていただきました。何卒よろしくお願い申し上げます。

URL : <http://www2c.biglobe.ne.jp/fushimi/>

森 義晴 (もり よしはる)



1995年に診断士登録しました森義晴です。プロコン育成塾2期生です。協会入会は2011年です。商業・情報の高校教諭で就職担当をしていた時、民間企業の人事担当者とは互角に情報交換したいと思ったのがきっかけ。定年退職を機に独立しました。私は高校時代にインターンシップをしながら通学し、零細企業の仮決算を行い、信用保証協会へ融資手続きをしたのが本町のビル。そこへ診断士受験の申し込みに行った時運命を感じました。社会人大学院にてマーケティング科目で博士号を取得。専門は経営戦略と市場活性化を中心にお役に立ちたいと思います。

山野井 章一 (やまのい しょういち)



みなさんこんにちは。山野井章一と申します。テレビやスマートフォンに使われている、液晶パネルの製造装置メーカーに18年間勤務し、2011年4月に登録しました。在職中は電装設計2年、営業4.5年、24時間クレーム対応を含む保守点検サービスに11.5年従事しました。仕事柄出張が多く、国内・韓国・台湾・中国に合計2000日出張しました。趣味は鉄道、旅行、日本史の戦国時代です。最近、国内液晶パネル業界に元気がありません。右肩上がりの時代を知っている者にとっては寂しい限りです。今後は、企業の安定黒字化と雇用拡大を目的に支援してまいりますので、ご協力賜りましたら幸いです。

渡邊 靖也 (わたなべ せいや)



平成23年10月に診断士登録いたしました渡辺と申します。現在、食品メーカーの経営企画を担当している企業内診断士です。当面は独立する予定はありませんが、日々自己研鑽に努め、いずれは中小企業の支援を行えるようになりたいと思っております。未熟者ではありますが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

このほか 青田 義久、岡崎 崇、金子 典嗣、坂本 真樹、田坂 和彦、水口 征樹の6氏も入会されました。

相良会長ら新協会執行部を選任

第1回社員総会、開催される



就任の挨拶をする相良会長

記念すべき一般社団法人(以下「社」)兵庫県中小企業診断士協会第1回通常総会が、去る平成24年5月22日に神戸市産業振興センターにおいて開催されました。

最初に(社)中小企業診断協会兵庫県支部としては最後となる第53回通常総会の審議が行われました。第1号議案「平成23年度事業報告書(案)等に関する件」についての報告と会計監査の結果報告がありました。採決の結果、第1号議案は可決承認されました。これをもって(社)中小企業診断協会兵庫県支部は53年の歴史に幕を閉じました。

次いで、(一社)兵庫県中小企業診断士協会第1回通常総会に移り、第1号議案「平成24年度事業計画(案)及び収支予算書(案)に関する件」、第2号議案「会費規程に関する件」について審議がありました。両案は質疑応答の後、可決承認されました。その後、第3号議案「役員選任に関する件」について審議がおこなわれ、原案通り18名の理事が選任されました。

この後、総会理事会が開催され、当協会執行部として相良紀会長、松浦敏貴・柴谷真治・奥村隆生副会長が選任され、総会に報告されました。

閉会に先だち、来賓としてご臨席いただきました兵庫県産業労働部産業振興局経営商業課課長 足達和則様、(公財)神戸市産業振興財団専務理事 澤木健夫様よりご祝辞を賜りました。

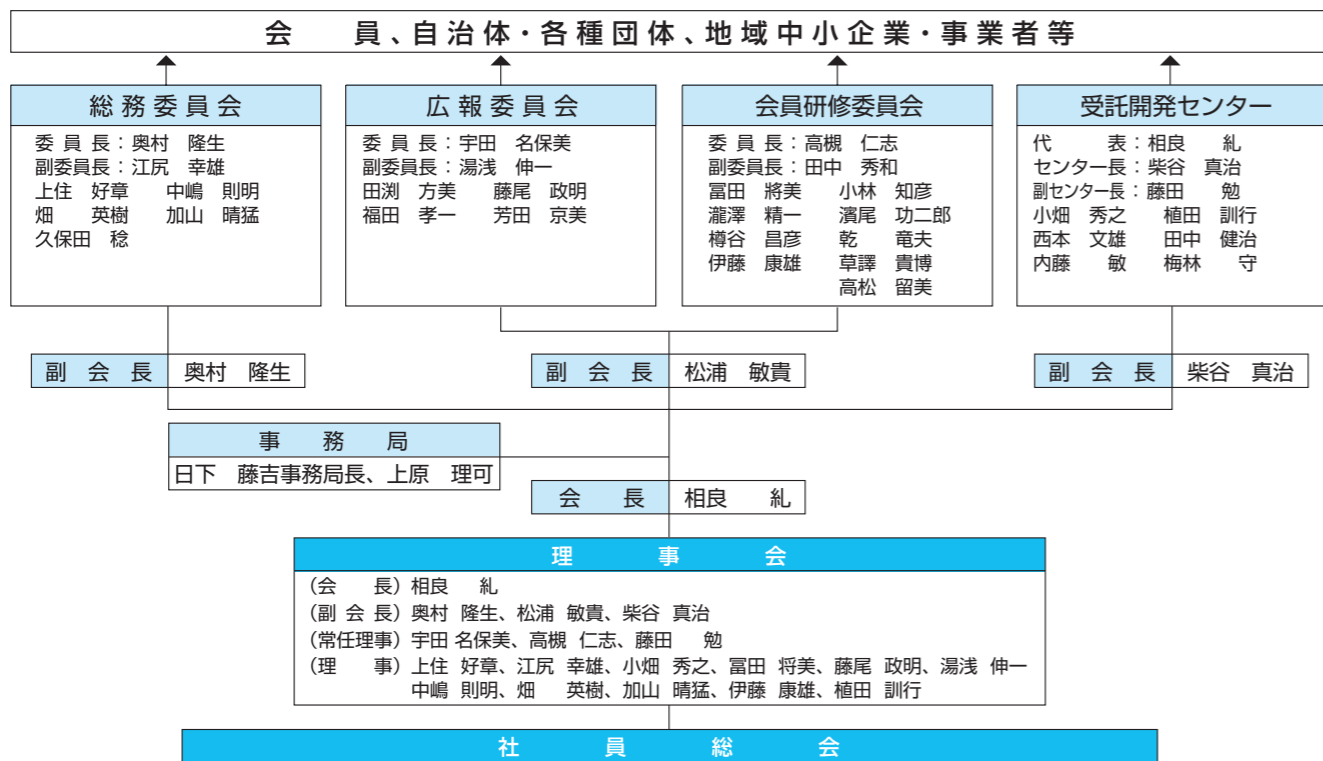
最後に、相良新会長が閉会の挨拶を行い、第1回社員総会は滞りなく終了いたしました。

総会終了後、神戸市産業振興センター・レセプションルームに会場を移し懇親会が催されました。

懇親会には、兵庫県、(公財)ひょうご産業活性化センター、(公財)神戸市産業振興財団、兵庫県商工会連合会、兵庫県中小企業団体中央会、神戸商工会議所、日本政策金融公庫神戸支店などより多数のご来賓の参会を賜り、またそれぞれの代表の方より我が協会の中小企業に対する経営支援活動について期待と叱咤激励のお言葉をいただきました。参会した会員諸氏は、ご来賓の方々との対話を通じ交流を深めさせていただくともに、和やかな一時を過ごしていました。

(総務委員長 奥村隆生)

(一社)兵庫県中小企業診断士協会 組織図



委員会の紹介

兵庫県中小企業診断士協会には4つの委員会があります。委員会活動は会員の協力で運営しています。ご興味のある委員会活動に是非ご参加ください。お問い合わせは各委員会委員長にご連絡ください。

総務委員会

主な活動内容

- ① 協会会員のための諸手続、事務処理、及び諸情報のメール配信等。
- ② 協会運営に関する諸規程や行事予定・名簿等の整備・維持・管理。
- ③ 社員総会、理事会、常任理事会の準備・開催。
- ④ 診断士登録更新研修の準備及び運営支援、及び更新支援業務の実施及び管理。
- ⑤ 新入会員ガイダンス・歓迎会等の準備及び運営支援。
- ⑥ 各種懇親会・理事会新年会の準備及び運営支援。
- ⑦ 経営診断実務研修の準備及び運営。
- ⑧ 事務局との協力による支部活動の推進。

総務委員会は、協会の活動全般を支援する重要な役割を担っています。メール配信を通じた各種情報提供の一部も行っています。今後とも、会員の皆様に「入っていて良かった」と思われるような、よりオープンでクリアな支部づくりに取り組んでいきます。当委員会は、支部の中核的組織のひとつであり、各種支部活動や公的機関、その他の情報に接触する機会も増えます。興味のある方は、ぜひ総務委員会にご参加ください。

活動日：毎月原則第2水曜日18時から 協会事務所に開催
(委員長：奥村隆生 okumura@cvn.bai.ne.jp)

会員研修委員会

主な活動内容

- ① オープン・セミナーを通じた会員等の資質向上
- ② 中小企業診断士としての新たなテーマ発掘
- ③ 中小企業診断士の業務拡大のための実践的セミナー
- ④ 企業内診断士のための活動支援
- ⑤ 中小企業支援機関との連携強化

中小企業診断士として活躍したい人は、是非なんらかの研究会や委員会に参加し人的ネットワークの拡大に努めてください。自らの才能を開花させるきっかけを得ることや自分の持っていない才能に出会うチャンスとしてください。

活動日：原則、毎月1回19時から 協会事務所に開催
オープンセミナー開催時等課題ごとに活動。委員会MLにて意見・情報交換
(委員長：高槻仁志 takatsuki@tokbs.jp)

受託開発センター

主な活動内容

兵庫県内の中小企業支援機関や民間企業からの業務を受託し、会員に仕事機会を提供する。

主な受託先

兵庫県、神戸市、(公財)ひょうご産業活性化センター、(公財)神戸市産業振興財団、 県内商工会議所、商工会、県内金融機関、兵庫県立大学受託開発センターは以下の活動方針に基づき、受託活動を通じて、県内関係者に当協会および中小企業診断士をよりよく理解いただくことを目標としています。

基本方針：

- ① 中小企業診断士としての会員の業務拡大を支援することにより、兵庫県下を中心とした中小企業及び関連団体への経営改善に寄与することを目標とする。
- ② 受託内容については、担保責任を維持するために質の向上を図る。
- ③ 経験年数の浅い会員等に対しても、担保責任の維持を図りつつ、受託機会の提供に努める。

活動日：偶数月第2火曜日18:30から 協会事務所での定例会の他、受託案件ごとの個別活動
(センター長：柴谷真治 kmw@kobemanagementworks.com)

広報委員会

主な活動内容

- ① 機関紙「診断ひょうご」の編集・企画・発行。
- ② 協会ホームページの運営・管理。
- ③ 各種公的機関誌への原稿掲載の推進。
- ④ メールマガジン、Twitter、facebook等を活用した協会の広報活動。

⑤ その他支部及び協会会員の諸活動の広報活動。
いつも和気あいあい、協会、会員の認知度向上をお手伝いします。自由な意見・アイデアを元に、できることはどんどん取り組んでいきたいと思っています。我こそはと思われる方はぜひ広報委員会にご参加ください。「診断ひょうご」や「各種団体の機関紙」、インターネット等を活用した自己PRを応援します。

活動日：毎月原則第2月曜日18時半から 協会事務所に開催
その他MLにて意見交換。
(委員長：宇田名保美 uda@uda-kobe.co.jp)

新理事の紹介

伊藤 康雄 (いとう やすお)



このたび、理事に就任させていただきましたこととなりましたOCSコンサルティングの伊藤康雄です。私は関西大学を卒業し、21年間新聞社に勤めた後、平成20年4月に開業致しました。現在は、「誇りを持っていきいきと働くことのできる職場作り」をモットーに活動しております。幼少の頃よりずっと神戸で育ってまいりましたので、中小企業診断士としての活動も旧兵庫県支部を中心に行ってまいりました。今後は、理事として当会の発展および会員の皆様の満足度向上のために尽力したいと思っております。微力ではありますが、何卒よろしくお願い致します。

植田 訓行 (うえた のりゆき)



「脳ミソまで筋肉の体育会！」と言われつつ学生時代はサッカーばかりしており、大学を卒業して住宅設備機器メーカーの営業、財団法人職員として教育事業企画に従事し、「モノを売る楽しさ」、「何もないところからアタマと紙と鉛筆で事業を企画立案する面白さ」を学んできました。中小企業診断士登録は平成20年で、まだ診断士として4年弱と経験の浅い、若輩者ではございますが、これまでの学びや経験を少しでも兵庫県中小企業診断士協会発展のために尽力させていただきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

加山 晴猛 (かやま はるたけ)



このたび理事を拝命しました加山晴猛と申します。私の強みは、映像・情報通信機器メーカーやエネルギープラント機器メーカーなどでの技術、営業、管理職実務から得た多様な知識と経験です。現在は主に福祉・介護事業所や建設業の経営改善・人材育成・新分野進出、創業支援活動に従事しています。めまぐるしく変化する現代を勝ち抜くためには、組織も人も旧来の価値観や枠組みを破る新たな挑戦が求められます。会員の皆様や地域社会のそのような挑戦への支援活動を通して、協会の社会的意義をより一層高められるよう誠心誠意努めさせていただきます所存です。

平成23年度 マスターセンター補助事業

テーマを絞った 観光モデルコースなどを提言

姫路市北部3町(香寺町、夢前町、安富町)活性化に関する調査報告



地域産業活性化研究会
会員 西口 延良

1 テーマ選出の理由と目的

2月に開催された兵庫県支部のオープンセミナーでは、日本銀行神戸支店の松永哲也支店長から、「日本経済の成長戦略において、観光を切り口とした産業振興を重点施策と位置づけ、国土交通省の観光庁をはじめ地方自治体も観光産業の育成に力を入れている」との講演がありました。兵庫県でも、「ひょうごツーリズム戦略」として2013年の外国人観光客数の目標を80万人に掲げ、インバウンドの観光振興に向けた取り組みが活発になっています。

このような背景をふまえ、私ども地域産業活性化研究会(10名)は、観光客誘致を念頭に、地域に埋もれている資源の発見・発掘を通じて地域産業の活性化を推進すべく、21年度は猪名川町、22年度は相生市の調査研究を行ってきました。23年度は平成の市町村合併で姫路市となった香寺町、夢前町、安富町の3町を対象地に選びました。旧姫路市に北接する3町が1市となり、地域活性化という共通の課題を抱えながら、従来の町の垣根を越えて課題解決に取り組む絶好の機会ではないかと考えたからです。

2 調査の概要

本調査は、地域の現状を徹底的に調査・分析して課題を認識することから始め、メンバー間で具体的な提言を検討し、それを地域に提案するためのプレゼンテーションを行いました。具体的な内容は次のとおりです。

調査名	調査対象者	調査方法	調査内容	回収数
発地調査	ターゲット地域住民	調査票 留め置き	当地のイメージ、訪問の有無等	607
着地調査	訪問中の観光客		現地を訪れた観光客の評価、消費額等	429
事業者調査	観光関連業者	ヒアリング	地元事業者の課題と要望等	15

(1) 外部情報や実地調査による情報収集の徹底

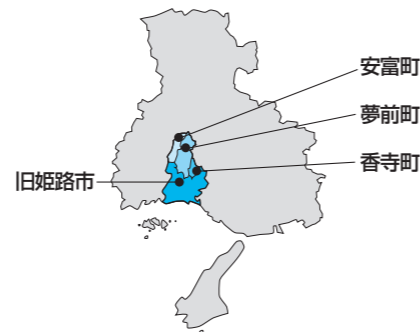
商工会や観光案内所のインターネット情報、行政や旅行会社が発行している案内パンフレット、マスコミや出版社が発行しているガイドマップ等の資料から情報収集を徹底し、観光施設や名産品など主な地域資源を把握し、姫路市北部3町のイメージを固めました。その後、収集した情報をもとにメンバーが実際に現地を訪れ、地域の観光施設の実態や観光価値、おもてなし度合いなどの覆面調査を実施しました。

(2) 発地調査・着地調査・事業者ヒアリング調査の実施

実地調査をもとに3種類の調査票を作成し、多面的に実態やニーズを調査しました。【表1】

(3) 調査の分析と地域活性化コンセプトの決定

上記の調査から、姫路市北部3町がターゲットとすべき観光客を想定しました。また、香寺ハーブガーデン、日本玩具博物館、ヤマサ蒲鉾夢鮮館、塩田温泉、下村酒造(奥播磨)など集客力ある観光施設の存



在、緑豊かな自然あふれる町の魅力、一定の固定客・リピーターの存在、地域の事業者の熱い志や意欲といった強みを掴みました。逆に、当地域の知名度が阪神間では低いことや、魅力ある観光施設が点在し交通網も十分でないなどの弱みも認識しました。これらのSWOT分析をもとに、地域活性化コンセプトを3町の地名を盛り込んだ『花・緑・湯煙香り心安らぐ夢の古里「ひめきた」』に決定しました。これは、姫路市北部3町の魅力ある地域資源を活かすことを前提に、姫路市北部3町の連携の意義・必要性を表わしています。



ヤマサ蒲鉾夢鮮館

(4) 地域活性化の具体策の検討

地域活性化の具体策として、以下の内容でまとめました。

- ① 地域住民を巻き込んだ活性化推進組織の整備を主眼においた体制づくり
- ② 香寺町・夢前町・安富町を有機的に結び付けるモデルコースづくり
- ③ 地域の特長を活かしたイベントの企画や特産品・名物料理の開発を行う商品づくり
- ④ ホームページの相互リンクやフェイスブックページの有効活用等の情報発信対策
- ⑤ ゆるキャラの開発やおもてなし・接客の向上を推進する販売促進対策

(5) 姫路市商工会地域活性化委員会への報告会の実施

最終報告会までに中間報告会を2回開催し、現状や課題についてディスカッションを行いました。最終報告会では報告書冊子を配付し、改善具体策を中心に提言しました。

3 調査の成果

事業推進リーダーや観光ボランティアガイドなどの人財育成、広域な地域であるがテーマを絞って効率的に観光できるモデルコースの策定、過去に実施していた雪彦(せっぴこ)マラソンの復活や最近



雪彦山の行者をイメージしたゆるキャラ「せっぴこ」

六甲山で注目を集めているロゲイニング等のイベントの実施、ゆるキャラ「せっぴこ」(雪彦山の行者をイメージ)の創造など、具体策としてまとめることができました。これらの具体策を提言として報告会でプレゼンすることにより、姫路市商工会や姫路市をはじめ地域の関係者の方々から高い評価を得ました。今回の調査報告での提言を実行すべく、引き続き支援オファーがきています。

4 事業の推進において大変だったこと

当研究会のメンバーにおいて、姫路市北部3町についての認識は浅く、SWOT分析の項目ごとに分担し、6月の雨降る中、現地の観光施設をくまなく訪問して情報収集に努めました。エリアが広いので1日では回りきれず、再度訪問せざるを得ませんでした。発地調査の回収に際しては、調査分析の精度を高めるためにクライアントや勤務先に対してできるだけ多くの回答を依頼し、アンケート回収数は607名と前年度より約200件も増やすことができました。また、姫路市北部3町のSWOT分析をふまえ、効果のある具体的な提言を行うために議論が白熱し、深夜に及ぶこともありました。

このような困難もありましたが、報告書の作成と提言を無事行うことができ、当研究会としての実績の蓄積と、各メンバーのスキルの向上につながりました。今後も地域産業活性化研究会は、兵庫県内の観光資源の発掘や課題の抽出を行い、地域の魅力を最大限に発揮するための提言を継続して行ってきたいと考えています。

(調査報告書は協会ホームページに掲載)



清酒「奥播磨」を製造している下村酒造



「奥播磨」の清酒

地域産業活性化研究会メンバー(敬称略)

出石 誠	伊藤 康雄	乾 竜夫	大場 一正
小畑 秀之	柏木 則人	佐治 淳司	西口 延良
藤尾 政明	目堅 孝		

協会だより

新事務局長として日下藤吉氏が4月より着任されました。また、事務職員も6月より着任しております。会員満足度向上のため鋭意努力していきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお祈りいたします。「業種別業界情報2012年版」を購入しました。また、すでに備え置きしています「業種別

審査事典」も最新版に更新していく方針であります。会員諸氏の経営診断業務に資する支援体制の一層の充実を図る方針でありますので、ご活用ください。

(総務委員会 奥村)

研究会スケジュール

問い合わせ先：078(362)6000

● オープンセミナー(会員研修委員会主催)

日時	場所	テーマ	講師
8月4日(土) 15:00~16:30	兵庫県民会館 902会議室	後継者視点で考える企業価値向上	みらいコンサルティング株式会社 大阪支社長 M&Aアドバイザー一部 部長 東 雅也氏

● 診断技術向上研究会

日時	場所	テーマ	講師
7月12日(木)	兵庫県民会館 302号会議室	農林漁業者への支援技術研究	未定(参加者全員)
8月9日(木)			未定(参加者全員)
9月13日(木)			未定(参加者全員)
10月11日(木)			未定(参加者全員)
11月8日(木)			未定(参加者全員)
12月13日(木)			未定(参加者全員)
1月10日(木)			未定(参加者全員)
2月14日(木)			未定(参加者全員)
3月14日(木)			未定(参加者全員)

開催日は原則、毎月第2木曜日。時間は18:30~20:30。会場：兵庫県民会館内会議室

● 地域産業活性化研究会

日時	場所	テーマ	講師
7月4日(水)	協会事務所	ひめきたフォローアップ調査	参加者全員
8月1日(水)	協会事務所	ひめきたフォローアップ調査	参加者全員
9月5日(水)	協会事務所	「まちゼミ」の活用方法の検討	参加者全員
10月3日(水)	協会事務所	「まちゼミ」の活用方法の検討	参加者全員
11月7日(水)	協会事務所	着地調査、実地調査のまとめ	参加者全員
12月5日(水)	協会事務所	地域活性化効果の検討	参加者全員

開催日は原則、毎月第1水曜日。時間は18:30~20:30

連絡先：伊藤康雄 ito-ya@msc.biglobe.ne.jp

● B S C研究会

日時	場所	テーマ	講師
6月22日(金)	協会事務所	経営改善目的B S C構築ワークシートの作成、及び導入支援のスキルアップ。(TOCを活用した中核問題抽出手法及びその解決策策定手法の開発。)	参加者全員
7月27日(金)	協会事務所	経営改善目的B S C構築ワークシートの作成、及び導入支援のスキルアップ。(TOCを活用した中核問題抽出手法及びその解決策策定手法の開発。)	参加者全員

開催日は原則、毎月第4金曜日。時間は18:00~20:00

連絡先：奥村隆生 okumura@cvn.bai.ne.jp

● プロコンスキル研究会

日時	場所	テーマ	講師
7月10日(火)	神戸市産業センター	自社事例、経営理念	指尾成俊、大場正一
9月11日(火)	神戸市産業センター	海外販路開拓、その他	田畑一佳、志水功行
11月13日(火)	神戸市産業センター	マーケティング、その他	青木宏人、福島 繁

開催日は原則、奇数月の第2火曜日。時間は18:30~20:00

連絡先：柳 辰雄 jiritsu@dioib.com

● オンリーワン経営研究会(HOO)

開催日は原則、毎月第4月曜日。時間は18:00~20:00

連絡先：福島 繁 sa3888@pearl.ocn.ne.jp

● 青年部会

参加資格は45歳以下の協会会員

連絡先：小畑 秀之 obata@sodateru.co.jp



編集後記

株式公開されたfacebookがモデルである映画「ソーシャル・ネットワーク」では、「ふられた腹いせに彼女の悪口をブログに書く」インターネット上でありがちな普通の人間としてfacebook創設者が描かれていました。Twitterやfacebook等のソーシャル・メディアと現実の場でのネットワーク、当誌のような紙媒体、様々なコミュニケーションツールの基本は人間関係。悪口は同意せず、広めず、聞くだけ、褒めることができる人間を目指したいと思う新法人の初夏です。(う)